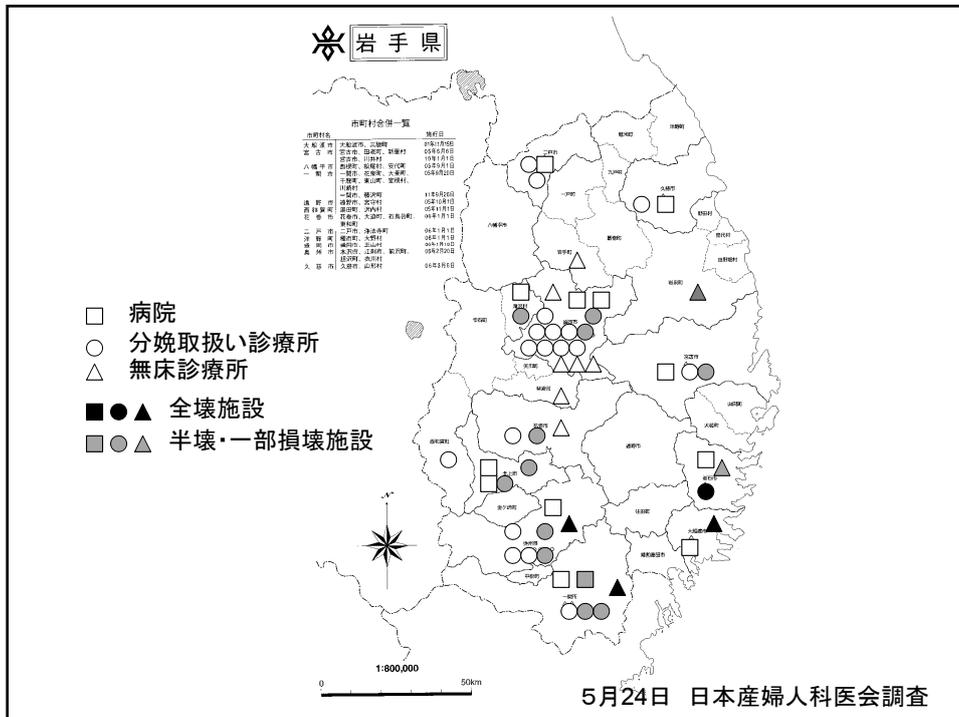


東日本大震災後の周産期医療を検証する

日本産婦人科医学会
日本医科大学
中井章人



被害状況(5月24日日本産婦人科医会調べ)								
	死亡者 数	負傷者 数	施設			自宅		
			全壊	半壊	一部	全壊	半壊	一部
全体	3	3	17	12	194	9	26	198
青森県			0	0	2	0	0	1
岩手県		1	4	1	13	1	2	18
宮城県	2		5	6	56	4	8	54
福島県	1	1	7	2	57	1	9	73
茨城県		1	1	3	57	2	5	47
千葉県			0	0	9	1	2	5

周産期施設の被災状況					
	産科施設	総数	全壊	半壊	一部
岩手県	病院	12	0	0	1
	診療所	31	1	0	11
宮城県	病院	16	0	0	6
	診療所	47	4	3	25
福島県	病院	21	3*	1	9
	診療所	36	3*	0	19

*避難区域

都道府県別施設平均医師数(昨年7月比)									
	昨年7月	1月	7月	増減		昨年7月	1月	7月	増減
北海道	4.1	4.9	4.9	0.7	滋賀県	4.0	5.1	5.3	1.3
青森県	4.0	3.1	3.1	▲0.9	京都府	4.4	4.2	4.7	0.3
岩手県	6.0	5.9	6.3	0.3	大阪府	6.5	6.7	6.3	▲0.3
宮城県	5.0	6.6	7.1	2.1	兵庫県	4.9	5.0	5.5	0.6
秋田県	2.9	4.0	3.7	0.8	奈良県	6.7	7.2	8.2	1.5
山形県	3.7	4.7	4.8	1.1	和歌山県	4.8	4.9	5.3	0.5
福島県	3.6	4.3	4.2	0.6	鳥取県	5.2	4.8	6.6	1.4
茨城県	4.6	5.4	5.6	1.0	島根県	3.4	4.0	4.1	0.7
栃木県	9.9	13.3	13.2	3.3	岡山県	5.9	5.1	5.4	▲0.5
群馬県	5.6	4.8	4.5	▲1.1	広島県	4.4	4.7	4.0	▲0.4
埼玉県	7.6	6.7	7.2	▲0.4	山口県	3.3	3.6	4.2	0.9
千葉県	6.4	6.0	6.9	0.5	徳島県	8.8	8.8	8.5	▲0.3
東京都	8.4	9.4	9.9	1.4	香川県	3.3	3.2	3.0	▲0.3
神奈川県	7.1	7.2	7.4	0.3	愛媛県	3.3	3.6	3.2	▲0.1
山梨県	5.0	6.0	5.7	0.7	高知県	4.5	5.0	4.4	▲0.1
長野県	4.6	4.5	4.6	0.1	福岡県	7.5	8.7	9.1	1.6
静岡県	5.1	5.5	6.0	0.9	佐賀県	4.6	4.0	5.0	0.4
新潟県	3.1	3.1	3.0	▲0.1	長崎県	4.6	3.7	3.8	▲0.9
富山県	4.7	4.1	5.9	1.2	熊本県	6.9	5.0	5.6	▲1.3
石川県	2.7	2.6	2.7	0.0	大分県	6.0	5.5	4.7	▲1.3
福井県	5.2	4.0	4.3	▲0.9	宮崎県	4.7	3.8	5.1	0.4
岐阜県	4.0	4.2	5.2	1.2	鹿児島県	3.8	4.7	4.3	0.5
愛知県	5.9	6.0	6.6	0.7	沖縄県	5.2	7.1	6.0	0.8
三重県	5.3	5.0	5.1	▲0.2	全施設	5.5	5.7	5.9	0.4

日本産婦人科医会施設情報調査2011、勤務医部アンケート2010、2011

2011年アンケート調査全国平均との比較

	2011年	岩手	宮城	福島
対象施設	1,118	12	16	21
有効回答(%)	754 (67.4)	8 (66.7)	14 (87.5)	9 (42.9)
1施設あたりの医師数				
常勤医	5.9	6.3	7.1	4.2
非常勤医師	2.0	1.3	0.7	0.9
平均勤務時間(1週間)	49.5	60.4	49.9	58.3
推定平均在院時間(1カ月)	304	304	267	310
当直				
回数(／月)	5.8	2.8	3.3	3.8
翌日勤務緩和(%)	163(21.6)	1 (12.5)	5 (35.7)	0 (0)
ハイリスク加算の還元(%)	47(10.3)	1 (12.5)	1 (7.1)	0 (0)

日本産婦人科医学会勤務医部アンケート2010、2011

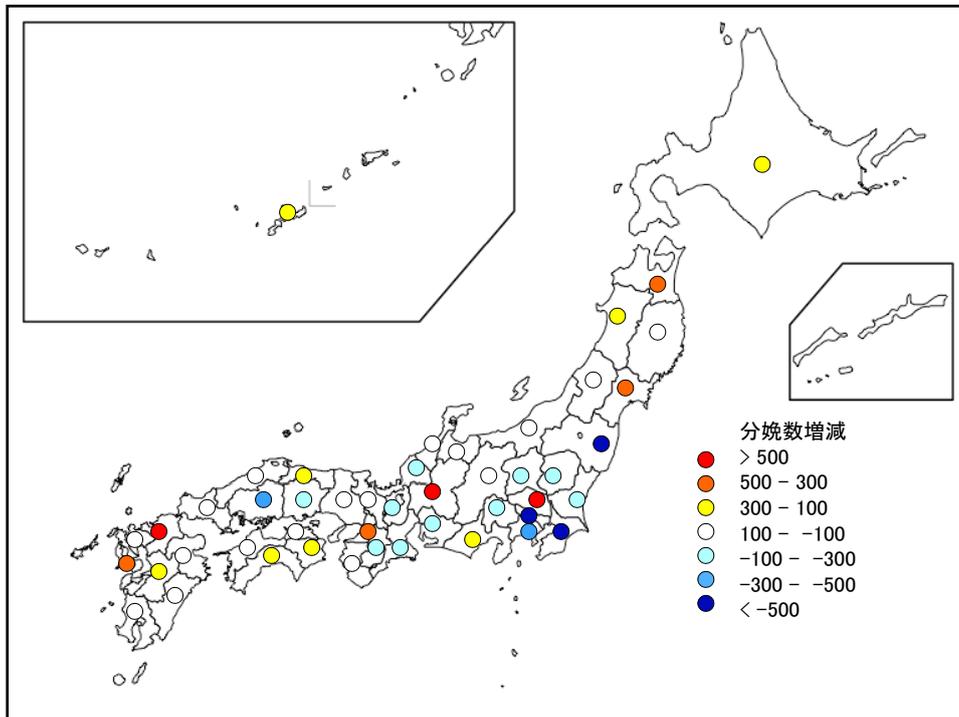
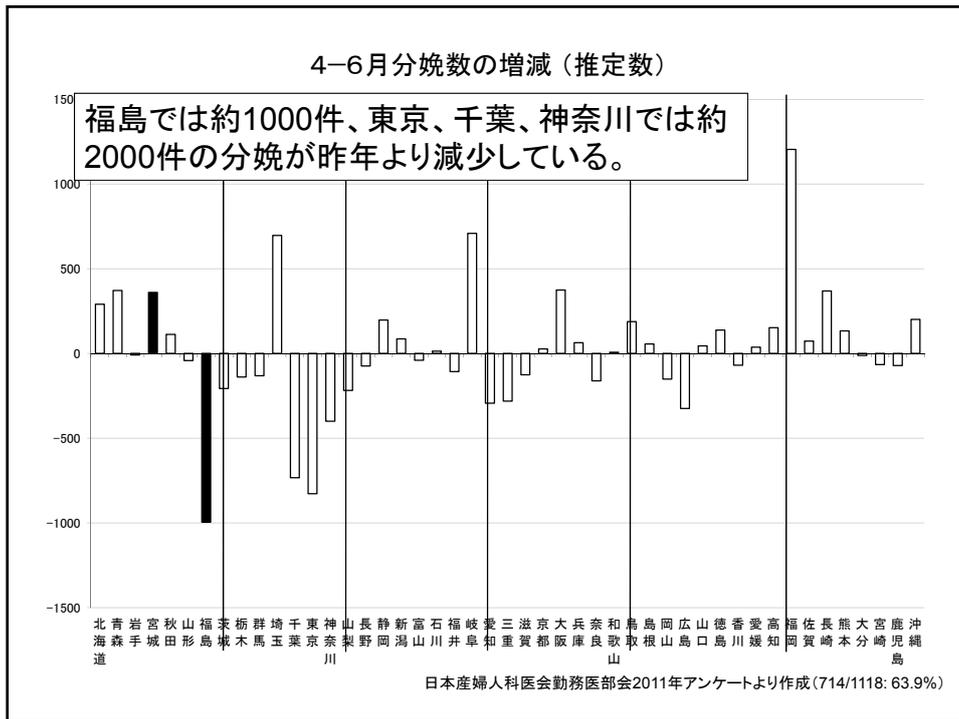
被災地およびその周辺の産婦人科医療供給体制

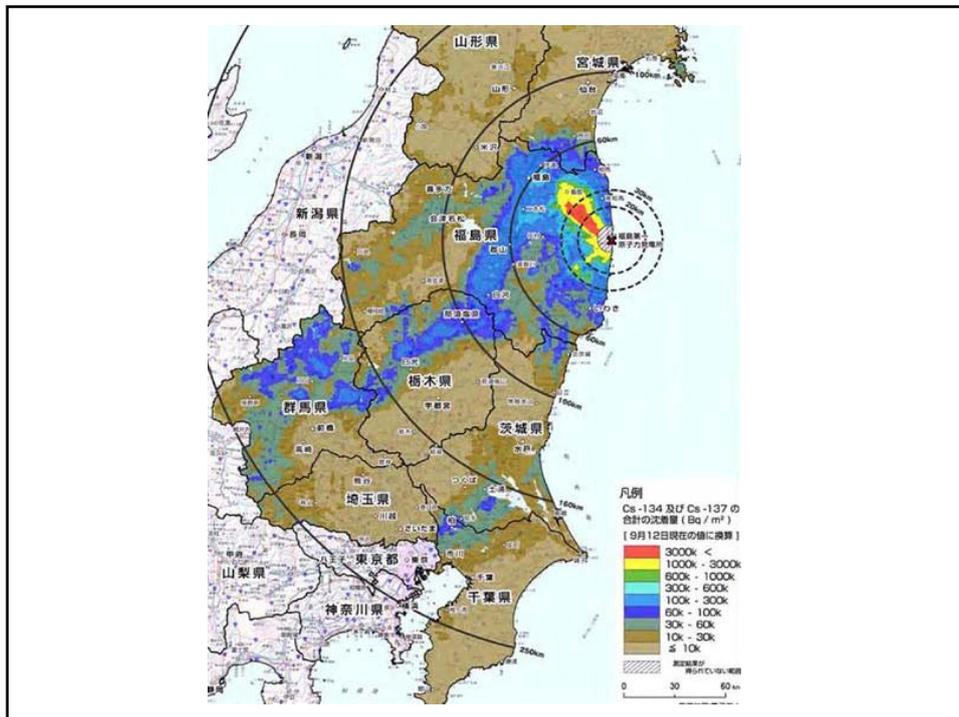
	人口*	分娩数**			診療所分娩率 (%)
		全体	病院	診療所	
青森	1388000	11242	5168	6074	54
岩手	1347000	11624	6058	5566	47.9
宮城	2329000	18536	9001	9535	51.4
秋田	1105000	8107	5559	2548	31.4
山形	1182000	10437	6183	4254	40.8
福島	2043000	18594	8068	10526	56.6
茨城	2923000	24483	13839	10644	43.5

* 2008年 人口動態調査より

** 2010年 日本産婦人科医学会施設情報調査より

岩手、宮城、福島3県では年間48754分娩があり、53%を診療所が取扱う。





福島第一原発事故

緊急時避難準備区域解除前

警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域及び特定避難勧奨地点がある地域の概要図

1. 避難区域

- ・福島第一原発警戒区域(20km圏内)
大熊町、双葉町、富岡町、楢葉町、浪江町、川内村、田村市、南相馬市
- ・計画的避難区域
飯館村(全域)、川俣町一部(山木屋地区)、葛尾村全域(20km圏内を除く)、浪江町(20km圏内を除く)、南相馬市一部
- ・緊急時避難準備区域(10月5日解除)
南相馬市、田村市、広野町、楢葉町、川内村

避難区域	年間分娩数
南相馬市	
南相馬市立総合病院	227
大町病院	134
3診療所	784
双葉町	
双葉厚生病院	257
合計	1402

3ヶ月間に換算すると350分娩

各地区の産婦人科医師数(福島全体200名)

避難地区の常勤医師:12名

病院3施設(常勤医師5名)、
有床診療所3施設(常勤医師4名)
無床診療所3施設(常勤医師3名)

避難地区隣接市区町村の常勤医師:36名

(相馬市、新地町、二本松市、三春町、本宮市、小野町、平田村、いわき市)
病院4施設(常勤医師6名)
有床診療所7施設(10名)
無床診療所18施設(20名)

その他の地区の常勤医師数:152名

病院14施設、診療所55施設

(一部が指定地区にかかる場合はその市区町村全ての施設、常勤医師数を算定している)

小活

震災後3ヶ月間(4月から6月)の岩手県、宮城県の分娩数はそれぞれ対前年比で99.6%、106%になっていた。この結果は、両県においては比較的短期間に診療機能が回復していたことを示唆している。その要因には、行政の対応により被災地の妊産婦が比較的多く県内にとどまられたこと、主要な周産期施設の被害が一部損壊にとどまっていたこと、平時から確立している大学病院を中心とした各県固有の診療ネットワークシステムが機能したことなどがあげられる。

一方、福島県では対前年比が74.6%と著明に減少し、県の年間出生数から推定すると3ヶ月間で約1000分娩が減少していたことになる。しかし、原発事故避難区域の周産期施設が年間取扱う分娩数は1402件で(2010年実績)、3ヶ月間では約350件にとどまる。したがって、原発事故の影響は原発事故避難区域にとどまらず福島県全体に及んでいると推察された。

また、全国の周産期施設の分娩数をみると福島県のみならず埼玉県を除く関東全域で同期間の分娩数が減少し、被災県以外の東北各県、北海道、九州など、北と南で増加する傾向にあった。このことは、東日本大震災が如何に甚大であり、原発事故による影響が広く全国に及んだことを示すものである。

南相馬市立総合病院(安部宏先生提供)

- 病床数 230床
(産婦人科30床)
 - 常勤医師 13人
(産婦人科1人)
- 分娩数 230件
手術数 130件
(平成21年度)
平成22年度もほぼ同数
で推移していた。
原発から23km地点



3月11日(金)14:46 地震発生



地震発生後、入院患者を全員1階へ移動。その後津波に備え、上階へ再度移動した。

写真提供: 及川副院長

3月11日 15:37



3月12日 10:14



地震、津波による病院混乱はほぼ1日半で収束
救急外来:約100名
黒タグ:6枚 赤タグ:18枚(骨盤骨折、)
死亡 :10人



患者は廊下、手術室、会議室と次々に並べられた。

3月13日 病院会議室を使用



原子力発電所の経過・避難

- 3月11日 19:03 原子力緊急事態宣言
21:23 福島第1より半径3Km 避難指示
- 3月12日 5:44 福島第1中央制御室で放射能上昇
福島第1より半径10Km 避難指示
15:36 福島第1 1号機建屋 水蒸気爆発
福島第1より半径20Km 避難指示
- 3月14日 11:01 福島第1 3号機建屋 水蒸気爆発
- 3月15日 11:08 福島第1 より20～30Km圏内、
14万人対象に屋内退避指示

産婦人科入院患者(3/11)

- 産科8人(切迫流早産2人、分娩誘発1人、産褥5人)
- 婦人科2人(子宮体癌術後、子宮頸癌再発)
- 3/12 7人退院(産褥、切流、体癌)
- 3/13 2人入院(予定帝切、誘発予定)
3/14に福島医大に警察の誘導で入院
- 3/14 分娩誘発患者は緊急帝切
2人福島市へ搬送(切早、帝切)
- 3/18 1人福島市へ搬送(頸癌)

入院患者0人



3月15日

**正職員、嘱託職員、臨時職員、契約職員が避難
(全職員の約2/3:230+44人→80~90人)**



契約社員: 医事、給食、清掃、守衛→0人

3月15日

**スタッフのガソリンが底をつく
職員は病院に寝泊まり**



リハビリ室



3月15日
食料が底をつく



院内の自動販売機

3月23日以降の業務

外来診療(午前、午後)

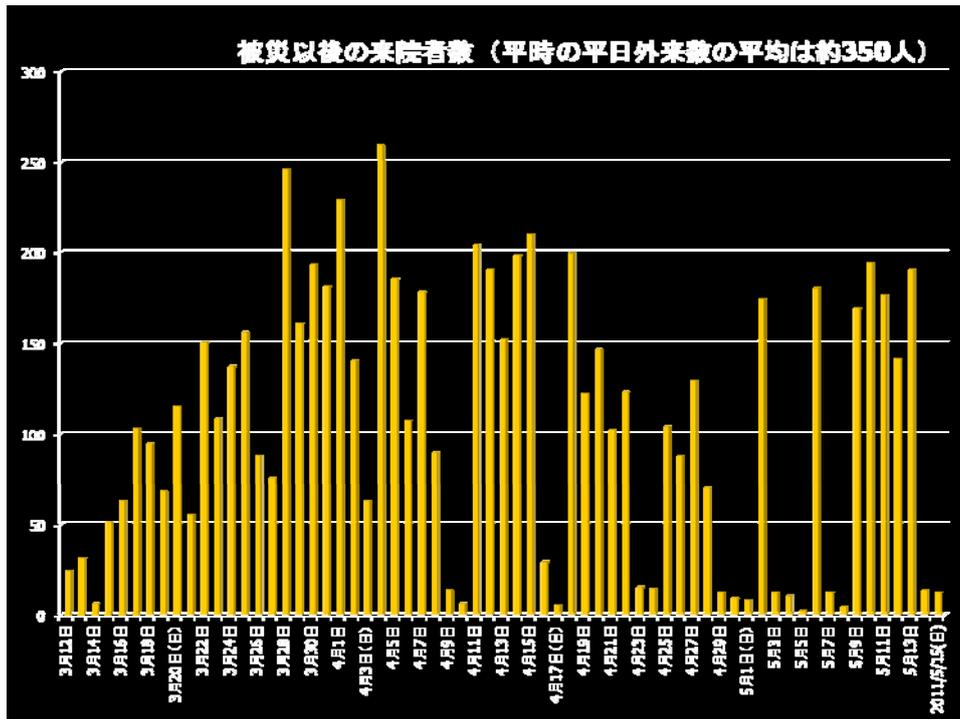
1次救急診療(必要に応じて2次救急診療)

夜間、休日診療

避難所訪問診療(市内4カ所)および統括

医療ボランティアコーディネーター

市、県、国への実情報告、陳情活動



南相馬市の分娩
1有床診療所のみ分娩継続

4月	1件
5月	1件
6月	0件
7月	3件
8月	6件
9月	4件
10月	5件